

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201286
法人名	社会福祉法人 日親会
事業所名	グルブホーム ラ・ファミーユ
所在地	今治市菊間町浜1453番地1
自己評価作成日	平成22年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 1 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にあるように、利用者・その家族・地域の皆さん・職員など関係者皆が『笑顔』になって、『笑顔』で過ごせるようなグループホームを目指して職員一同頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者総合福祉施設の一角に開設されたホームである。玄関前の広い敷地には洋風のベンチとテーブル、花壇があり、利用者の語らいや、戸外での食事やお茶、日向ぼっこ等に最適の場所となっている。ホーム内は床暖房で、広めの居間は利用者が歩行練習をしたり、レクリエーションやボランティアの演奏を楽しむにも都合がよい。職員は、理念の「笑顔」をモットーに、人生の先輩として尊敬の念を持って利用者に接し、自立を目指した支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ラ・ファミーユ

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏 名 安永 英和

評価完了日 平成 22 年 1 月 8 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 新たな理念を作ろうかと職員皆で話し合いましたが、やはり『笑顔』になり地域の人・利用者とその家族・職員間など、人と接するのにまず笑顔からということで『笑顔』を継続・実施していく事になりました。 (外部評価) 理念は全職員で話し合い、「笑顔」としている。管理者と職員は、週1回の朝礼時の復唱や、居間の見やすい場所への掲示等を通じて理念を共有している。また、日々のケアの中で「笑顔」を実践するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、地域の文化祭など利用者の作品を出展・参加したり、地方の祭りで御神輿や御供馬を招いたり、祭りの現地へ見に行ったり、中学生の職場体験を受け入れたり、当施設の夏祭りに地域の人を招き交流をしましたが、本年はインフルエンザの流行があり例年のようにいかず、中止や縮小・参加を見合わせたのもありました。 (外部評価) 地域の文化祭に貼り絵や習字等、利用者の作品を出品したり、祭りでホームに来てくれる神輿や御供馬を楽しむなど、地域行事に参加している。また、地域の方を招いたホームの夏祭り、中学生の職場体験や太鼓演奏の訪問、婦人会や愛護班の方が手伝いに来てくれる餅つきなど、地域と交流できる機会を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 事業所等で話し合いをしています、実際に地域の人々に向けて活かせることが出来ていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 入居者・家族・地域・行政・事業所とで意見交換を行い、意見や要望等をミーティングで話し合い改善すべき事を速やかに行い、サービス向上にいかしている。	
			(外部評価) 3～4か月に1回の会議では、ホームの状況、行事、外部評価、職員の研修等について報告し、意見や助言等をいただいている。会議での意見を活かし、玄関の意見箱に関する検討を行う等、サービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議の目的を果たし、さらにステップアップするためにも、会議を定期の2か月に1回開催することが望まれる。また、職員が会議に出席することは学習の機会ともなるため、順次参加できるような工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議以外だと、手続き等で市役所の支所へ行った時などに色々情報などをいただいている。	
			(外部評価) ファクス送信で可能とされていること等でも、直接話しをする機会と考え、書類提出時等には市担当課に出向いて情報交換に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 代表者及び他の職員も、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについては、ミーティング後の勉強会等で話し合っている。玄関は日中はセンサーで対応し、鍵はかけていない。つなぎ服を持参した家族に対し、ホームの方針として使用できないことを説明して理解してもらったこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者の虐待についてミーティング等で話し合いを行い、言葉が暴力にならないよう言葉使いや表情などを職員が互いに気を配ったり、入浴介助・トイレ介助時などにも身体の状態をチェックし異状があれば上司報告・申し送りでの報告し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて説明等を行っているが、職員全体まで取組めていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 本人と家族に施設見学をしていただき契約書及び重要事項説明書を説明し、家族側の要望・不安・疑問などの思いを十分に話し合い理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に、家族等から管理者や職員へ意見・苦情等があれば伝えていただいている。グループホーム玄関に意見箱を設置しました。 (外部評価) 利用者の意見は日常の会話や行動、家族の情報等からくみ取るよう努めている。家族の要望や意見は、来訪時に管理者や職員が声をかけて聞き取ったり、運営推進会議での発言等から把握している。苦情相談窓口は内部と外部に分けて関係書類に明記し、家族にも説明している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回ミーティングを行い、その場で提案出来る機会を設けている。提案のあった場合は、運営者と検討して必要なものや活用可能なものに関しては運営面で反映させている。	
			(外部評価) 月1回のミーティングで、職員から主にケアに関する意見や提案があり、運営に反映させている。職員が管理者に意見を言いやすい関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 各自がそれぞれの課題、目標を立て、その進捗度を評価するとともに、行動評価表を基に評価を行い、その結果を昇給及び賞与等に反映させるようなシステム作りに着手している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修・内部研修など、研修の情報がはいると回覧し希望者の勤務を調整して参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者・職員レベルでの個人的な交流は行っているが、事業所間での交流がまだ出来ていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) まずはホームへ来ていただき、本人からの話しをよく聴いてから説明し不安を解消していただいてから実際にホームの見学(触れ合い)をしていただいてから具体的に話し合いを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 上記の事を本人と家族と一緒にいき、家族の不安・悩み・要望をよく聴いた上で、本人の生活状況・問題点等をよく聴いて、家族との信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の相談に応じて、当施設内の他の事業所サービスやグループ内の他の施設サービスを進める話しも本人や家族の条件に合わせてしています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理や農作業等を利用者から指導を受けたり、外出時に花や虫などの名前を利用者から教えてもらったり、行事の作業とか利用者の得意分野を職員が利用者を頼りにして関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には、利用者の日々の様子やエピソードなどを報告し、家族にも協力してもらえ支援はおねがいし、今後利用者を支えていく上で必要な情報を共有し家族との関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) この件に関しては家族対応をお願いしているが、ドライブなどで思い出の場所へ行ったり通った時などに思い出話をしたりしている。 (外部評価) 家族以外にも友人や近所の方の訪問があり、利用者の居室で話し合えるよう配慮している。外出時には、遠回りになっても利用者の自宅やその周辺を通るようにしている。家族と一緒に墓参りに行ったり、職員が付き添って葬儀に参列することもある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は、出来るだけ居室から出て他の利用者と過ごしていただき、利用者同士の関係は職員が把握しており、トラブルの発生を未然に防ぎ対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了後も、本人・家族からの相談にのつたり、終了後の介護サービスの紹介・仲介を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意思を尊重しつつ本人の状況を考慮し、出来る限りの対応をおこなっている。	
			(外部評価) 一人ひとりの思いや希望は日常の会話、行動、好みを尋ねての反応、家族の情報等から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族に聞き取りを行います、家族にも分からないケースもあるが出来る限り把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) グループホーム入居後1ヶ月程度は、利用者自身の生活パターンや癖等を細かく記録して把握する時間に当たっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) グループホームでの生活が、安全と安心が保障された本人主体の生活になるよう本人・家族と職員の意見を取り入れ、利用者に適した方法で介護できるよう介護計画を作成している。 (外部評価) 職員が前もって利用者や家族の要望を把握し、全職員で話し合って介護計画を作成している。月1回のミーティングで話し合い、必要時には変更している。利用者の状況に変化がなくても3か月に1回は見直している。介護計画を基に週間計画をつくり、最新の支援内容を個別記録の1ページ目に綴じること、常に確認できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の状況を介護記録に記載し、情報を共有して話し合いを行い介護計画に反映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 事業所内で対応出来ることと、隣接する同施設で対応出来ることに関しては、必要に応じて柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 大きな行事の時に、民生委員・婦人部・短大生・地域のボランティアグループが手伝いに来てくれたり、中学生が利用者のために太鼓演奏などで来てくれます。また消防署員による、『応急処置・心肺蘇生』研修会をしに来てくれました。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 週1回の協力医療機関による往診を行っている。基本的 に病院に関しては、家族の希望に合わせている。家 族が他の病院を希望する場合は、家族対応で行って もらっている。 (外部評価) 利用者及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援 している。協力医療機関の医師及び歯科医師による往 診が週1回あり、年1回は健康診断も実施している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員と看護職員との連携がとれ、利用者に適切な 受診や看護を受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、病院へ基本的な情報を提示し、入院先・ 家族・職員が早期退院、再入居が可能なよう連携して いる。また知り合った病院の相談員と連絡を取ったり しています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合や終末期までのあり方についての対応 は、指針を入居時に説明していて、受け入れ先が見つ かるまで当施設で対応することで同意を得ている。家 族や医療関係者と連帯が取れて支援できている。 (外部評価) ホームの方針として、重度化や終末期の対応は行わな いこととしており、このことを早い時期から利用者や 家族に説明し、話し合っている。受け入れ先に移るま では誠意をもってホームで対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署員に来てもらって、応急手当や心肺蘇生の研修会をしましたが、定期的に行っていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練は、定期的を実施していますが、地域との協力体制は運営推進会議で出したのですが、まだ協力体制まで出来ていません。 (外部評価) 夜間想定も含め、年2回の防災訓練を実施している。訪問調査日現在、スプリンクラーの設置工事中であり、今年度内には完成の予定である。災害時の地域との協力体制が築かれているとはいえない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員皆十分に注意を払っている。ミーティング時にも利用者に対する言葉かけ・言葉づかいや対応について話しあっている。 (外部評価) 職員は、人生の先輩として尊重した態度で利用者に接し、丁寧な声かけをしている。トイレ誘導をさりげなく小声で行ったり、入浴介助では露出を少なくする等の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の理解力に応じて会話するようにしているが、いつも自分で決めて納得しているかは分かりにくいです。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員数の関係もあり、全てが利用者の希望通りにはいかないが、出来る限り希望にそった日々の暮らしが出来るよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理容・美容に関しては、本人や家族の希望に沿って対応としている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と出来ることに関しては、手伝ってもらったり職員と一緒にしてもらっている。外出行事で飲食店で好きな物を注文して昼食をすることもあります。 (外部評価) 利用者は、料理をテーブルに並べたり、食後の食器の片づけ等を職員と一緒にやっている。職員は、利用者が自力で食べるのを見守り、偏った食べ方になっている利用者にはさりげなく食器を移動する等の支援をしている。外出先のレストラン、食堂等での食事を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食材を専門業者に配送してもらっているので、業者の栄養士がレシピを作りそのレシピに沿って料理していますし、水分は食事・おやつ・入浴・本人希望以外にも水分補給を行っています、一人ひとりの事情によって調整しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアを実施をして、義歯は定期的に洗浄剤に漬け置きをして清潔保持している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンや状態に合ったトイレ誘導・介助を行い、失禁やトイレでの失敗を減らして自立への支援を行っている。 (外部評価) 排泄チェック表を活用し、また利用者の気配等からも察知してトイレ誘導を行っている。やむを得ずパッドや紙パンツを使用することもあるが、通常はほとんどの方が布パンツで過ごしており、おむつは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 朝のおやつに、牛乳系かヨーグルト系を毎日交互にだしている。散歩をしてもらったり、シャワートイレを利用したり薬等での対応もしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員数の関係で、利用者の希望通りの入浴が出来ていない。入浴の曜日は決まっているが、順番についてはその都度配慮して決めている。利用者の体調不良によって入浴出来ない場合は、翌日に入浴するか清拭などで対応している。 (外部評価) 週3回は入浴できるよう支援している。湯は利用者ごとに入れ替えている。浴槽と同じ高さの木製の長いすを使用する等、安全に留意した入浴介助に努めている。入浴後の水分補給にも気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとり入眠時間が違うので、眠くなるまでフローア等ですごしていただいています。休息は、職員が昼夜逆転にならないように配慮しながら休息してもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が利用者全員の服薬を管理しており、各利用者のカルテに処方箋を付けているのと、処方箋のファイルがあり職員がいつでも確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 限りはありますが、したい事が出来るように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の状況にも寄るが、出来る限りは外出が出来るようにしている。	
			(外部評価) 近くの神社に散歩や初詣に出かけたり、車でスーパーに買い物に行ったり、玄関先のベンチでおしゃべりや日向ぼっこを楽しむ等、利用者が戸外で過ごせるよう支援している。行事で祭り見物や花見に出かける機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望で持っている利用者もありますが、殆どの利用者が持っておらず小遣いをグループホームで預かり、本人の必要に応じて家族に了解をもらってから出すようにしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者本人が希望し家族が了解すれば、電話での家族等と会話してもらっています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は広く、床暖房を完備しており壁に利用者と職員とで作成した季節の掲示物などがあります。	
			(外部評価) ホーム内は床暖房で、ゆったりとした共用空間は掃除が行き届いていて清潔感がある。随所にいすを置き、自由に好みの場所でくつろげるよう配慮している。壁には利用者の作品や行事の写真等を飾り、利用者の歩行練習やゲーム、ボランティアの演奏等に活用できる広いスペースもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間は広く自分の居室に入るのも自由なので、思い思いの場所で他の利用者や職員と話しをしたりテレビを見たり横になったりと自由に過ごしています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と利用者で話しをして、使い慣れた物を家から持って来ていただいたり、使いやすい方向にベッドを置いたりし、その後は職員と利用者で飾り付けなどをしている。	
			(外部評価) 各居室に洗面台を設置しており、利便性が高い。畳の部屋もある。利用者の使い慣れたいす、衣装ケース、仏壇等を持ち込み、手作りの作品や写真を飾り、居心地よく過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりが、日常の生活・レクリエーション・行事を通して利用者が出来る生活動作を失わないように支援している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201286
法人名	社会福祉法人 日親会
事業所名	グルブホーム ラ・ファミーユ
所在地	今治市菊間町浜1453番地1
自己評価作成日	平成22年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 1 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にあるように、利用者・その家族・地域の皆さん・職員など関係者皆が『笑顔』になって、『笑顔』で過ごせるようなグループホームを目指して職員一同頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者総合福祉施設の一角に開設されたホームである。玄関前の広い敷地には洋風のベンチとテーブル、花壇があり、利用者の語らいや、戸外での食事やお茶、日向ぼっこ等に最適の場所となっている。ホーム内は床暖房で、広めの居間は利用者が歩行練習をしたり、レクリエーションやボランティアの演奏を楽しむにも都合がよい。職員は、理念の「笑顔」をモットーに、人生の先輩として尊敬の念を持って利用者に接し、自立を目指した支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ラ・ファミーユ

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏 名 安永 英和

評価完了日 平成 22 年 1 月 8 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 新たな理念を作ろうかと職員皆で話し合いましたが、やはり『笑顔』になり地域の人・利用者とその家族・職員間など、人と接するのにまず笑顔からということで『笑顔』を継続・実施していく事になりました。 (外部評価) 理念は全職員で話し合い、「笑顔」としている。管理者と職員は、週1回の朝礼時の復唱や、居間の見やすい場所への掲示等を通じて理念を共有している。また、日々のケアの中で「笑顔」を実践するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、地域の文化祭など利用者の作品を出展・参加したり、地方の祭りで御神輿や御供馬を招いたり、祭りの現地へ見に行ったり、中学生の職場体験を受け入れたり、当施設の夏祭りに地域の人を招き交流をしましたが、本年はインフルエンザの流行があり例年のようにいかず、中止や縮小・参加を見合わせた。 (外部評価) 地域の文化祭に貼り絵や習字等、利用者の作品を出品したり、祭りでホームに来てくれる神輿や御供馬を楽しんだり、地域行事に参加している。また、地域の方を招いたホームの夏祭り、中学生の職場体験や太鼓演奏の訪問、婦人会や愛護班の方が手伝いに来てくれる餅つきなど、地域と交流できる機会を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 事業所等で話し合いをしていますが、実際に地域の人々に向けて活かせることが出来ていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 入居者・家族・地域・行政・事業所とで意見交換を行い、意見や要望等をミーティングで話し合い改善すべき事を速やかに行い、サービス向上にいかしている。	
			(外部評価) 3～4か月に1回の会議では、ホームの状況、行事、外部評価、職員の研修等について報告し、意見や助言等をいただいている。会議での意見を活かし、玄関の意見箱に関する検討を行う等、サービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議の目的を果たし、さらにステップアップするためにも、会議を定期の2か月に1回開催することが望まれる。また、職員が会議に出席することは学習の機会ともなるため、順次参加できるような工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議以外だと、手続き等で市役所の支所へ行った時などに色々情報などをいただいている。	
			(外部評価) ファクス送信で可能とされていること等でも、直接話しをする機会と考え、書類提出時等には市担当課に出向いて情報交換に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 代表者及び他の職員も、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについては、ミーティング後の勉強会等で話し合っている。玄関は日中はセンサーで対応し、鍵はかけていない。つなぎ服を持参した家族に対し、ホームの方針として使用できないことを説明して理解してもらったこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者の虐待についてミーティング等で話し合いを行い、言葉が暴力にならないよう言葉使いや表情などを職員が互いに気を配ったり、入浴介助・トイレ介助時などにも身体の状態をチェックし異状があれば上司報告・申し送りでの報告し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて説明等を行っているが、職員全体まで取組めていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 本人と家族に施設見学をしていただき契約書及び重要事項説明書を説明し、家族側の要望・不安・疑問などの思いを十分に話し合い理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に、家族等から管理者や職員へ意見・苦情等があれば伝えていただいている。グループホーム玄関に意見箱を設置しました。 (外部評価) 利用者の意見は日常の会話や行動、家族の情報等からくみ取るよう努めている。家族の要望や意見は、来訪時に管理者や職員が声をかけて聞き取ったり、運営推進会議での発言等から把握している。苦情相談窓口は内部と外部に分けて関係書類に明記し、家族にも説明している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回ミーティングを行い、その場で提案出来る機会を設けている。提案のあった場合は、運営者と検討して必要なものや活用可能なものに関しては運営面で反映させている。 (外部評価) 月1回のミーティングで、職員から主にケアに関する意見や提案があり、運営に反映させている。職員が管理者に意見を言いやすい関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 各自がそれぞれの課題、目標を立て、その進捗度を評価するとともに、行動評価表を基に評価を行い、その結果を昇給及び賞与等に反映させるようなシステム作りに着手している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修・内部研修など、研修の情報がはいると回覧し希望者の勤務を調整して参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者・職員レベルでの個人的な交流は行っているが、事業所間での交流がまだ出来ていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) まずはホームへ来ていただき、本人からの話しをよく聴いてから説明し不安を解消していただいてから実際にホームの見学(触れ合い)をしていただいてから具体的に話し合いを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 上記の事を本人と家族と一緒にいき、家族の不安・悩み・要望をよく聴いた上で、本人の生活状況・問題点等をよく聴いて、家族との信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の相談に応じて、当施設内の他の事業所サービスやグループ内の他の施設サービスを進める話しも本人や家族の条件に合わせてしています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理や農作業等を利用者から指導を受けたり、外出時に花や虫などの名前を利用者から教えてもらったり、行事の作業とか利用者の得意分野を職員が利用者を頼りにして関係を築いている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には、利用者の日々の様子やエピソードなどを報告し、家族にも協力してもらえ支援はおねがいし、今後利用者を支えていく上で必要な情報を共有し家族との関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) この件に関しては家族対応をお願いしているが、ドライブなどで思い出の場所へ行ったり通った時などに思い出話をしたりしている。 (外部評価) 家族以外にも友人や近所の方の訪問があり、利用者の居室で話し合えるよう配慮している。外出時には、遠回りになっても利用者の自宅やその周辺を通るようにしている。家族と一緒に墓参りに行ったり、職員が付き添って葬儀に参列することもある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は、出来るだけ居室から出て他の利用者と過ごしていただき、利用者同士の関係は職員が把握しており、トラブルの発生を未然に防ぎ対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了後も、本人・家族からの相談にのつたり、終了後の介護サービスの紹介・仲介を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意思を尊重しつつ本人の状況を考慮し、出来る限りの対応をおこなっている。	
			(外部評価) 一人ひとりの思いや希望は日常の会話、行動、好みを尋ねての反応、家族の情報等から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族に聞き取りを行います、家族にも分からないケースもあるが出来る限り把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) グループホーム入居後1ヶ月程度は、利用者自身の生活パターンや癖等を細かく記録して把握する時間に当たっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) グループホームでの生活が、安全と安心が保障された本人主体の生活になるよう本人・家族と職員の意見を取り入れ、利用者に適した方法で介護できるよう介護計画を作成している。 (外部評価) 職員が前もって利用者や家族の要望を把握し、全職員で話し合っ介護計画を作成している。月1回のミーティングで話し合い、必要時には変更している。利用者の状況に変化がなくても3か月に1回は見直している。介護計画を基に週間計画をつくり、最新の支援内容を個別記録の1ページ目に綴じることで、常に確認	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の状況を介護記録に記載し、情報を共有して話し合いを行い介護計画に反映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 事業所内で対応出来ることと、隣接する同施設で対応出来ることに関しては、必要に応じて柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 大きな行事の時に、民生委員・婦人部・短大生・地域のボランティアグループが手伝いに来てくれたり、中学生が利用者のために太鼓演奏などで来てくれます。また消防署員による、『応急処置・心肺蘇生』研修会をしに来てくれました。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 週1回の協力医療機関による往診を行っている。基本的 に病院に関しては、家族の希望に合わせている。家 族が他の病院を希望する場合は、家族対応で行って もらっている。 (外部評価) 利用者及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援 している。協力医療機関の医師及び歯科医師による往 診が週1回あり、年1回は健康診断も実施している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員と看護職員との連携がとれ、利用者に適切な 受診や看護を受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、病院へ基本的な情報を提示し、入院先・ 家族・職員が早期退院、再入居が可能なよう連携して いる。また知り合った病院の相談員と連絡を取ったり しています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合や終末期までのあり方についての対応 は、指針を入居時に説明していて、受け入れ先が見つ かるまで当施設で対応することで同意を得ている。家 族や医療関係者と連帯が取れて支援できている。 (外部評価) ホームの方針として、重度化や終末期の対応は行わな いこととしており、このことを早い時期から利用者や 家族に説明し、話し合っている。受け入れ先に移るま では誠意をもってホームで対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署員に来てもらって、応急手当や心肺蘇生の研修会をしましたが、定期的に行っていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練は、定期的を実施していますが、地域との協力体制は運営推進会議で出したのですが、まだ協力体制まで出来ていません。 (外部評価) 夜間想定も含め、年2回の防災訓練を実施している。訪問調査日現在、スプリンクラーの設置工事中であり、今年度内には完成の予定である。災害時の地域との協力体制が築かれているとはいえない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員皆十分に注意を払っている。ミーティング時にも利用者に対する言葉かけ・言葉づかいや対応について話しあっている。 (外部評価) 職員は、人生の先輩として尊重した態度で利用者に接し、丁寧な声かけをしている。トイレ誘導をさりげなく小声で行ったり、入浴介助では露出を少なくする等の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の理解力に応じて会話するようにしているが、いつも自分で決めて納得しているかは分かりにくいです。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員数の関係もあり、全てが利用者の希望通りにはいかないが、出来る限り希望にそった日々の暮らしが出来るよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理容・美容に関しては、本人や家族の希望に沿って対応としている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者が出来ることに関しては、手伝ってもらったり職員と一緒にしてもらっている。外出行事で飲食店で好きな物を注文して昼食をすることもあります。	
			(外部評価) 利用者は、料理をテーブルに並べたり、食後の食器の片づけ等を職員と一緒にやっている。職員は、利用者が自力で食べるのを見守り、偏った食べ方になっている利用者にはさりげなく食器を移動する等の支援をしている。外出先のレストラン、食堂等での食事を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食材を専門業者に配送してもらっているので、業者の栄養士がレシピを作りそのレシピに沿って料理していますし、水分は食事・おやつ・入浴・本人希望以外にも水分補給を行っています、一人ひとりの事情によって調整しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアを実施をして、義歯は定期的に洗浄剤に漬け置きをして清潔保持している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンや状態に合ったトイレ誘導・介助を行い、失禁やトイレでの失敗を減らして自立への支援を行っている。 (外部評価) 排泄チェック表を活用し、また利用者の気配等からも察知してトイレ誘導を行っている。やむを得ずパッドや紙パンツを使用することもあるが、通常はほとんどの方が布パンツで過ごしており、おむつは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 朝のおやつに、牛乳系かヨーグルト系を毎日交互にだしている。散歩をしてもらったり、シャワートイレを利用したり薬等での対応もしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員数の関係で、利用者の希望通りの入浴が出来ていない。入浴の曜日は決まっているが、順番についてはその都度配慮して決めている。利用者の体調不良によって入浴出来ない場合は、翌日に入浴するか清拭などで対応している。 (外部評価) 週3回は入浴できるよう支援している。湯は利用者ごとに入れ替えている。浴槽と同じ高さの木製の長いすを使用する等、安全に留意した入浴介助に努めている。入浴後の水分補給にも気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとり入眠時間が違うので、眠くなるまでフローア等ですごしていただいています。休息は、職員が昼夜逆転にならないように配慮しながら休息してもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が利用者全員の服薬を管理しており、各利用者のカルテに処方箋を付けているのと、処方箋のファイルがあり職員がいつでも確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 限りはありますが、したい事が出来るように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の状況にも寄るが、出来る限りは外出が出来るようにしている。	
			(外部評価) 近くの神社に散歩や初詣に出かけたり、車でスーパーに買い物に行ったり、玄関先のベンチでおしゃべりや日向ぼっこを楽しむ等、利用者が戸外で過ごせるよう支援している。行事で祭り見物や花見に出かける機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望で持っている利用者もありますが、殆どの利用者が持っておらず小遣いをグループホームで預かり、本人の必要に応じて家族に了解をもらってから出すようにしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者本人が希望し家族が了解すれば、電話での家族等と会話してもらっています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は広く、床暖房を完備しており壁に利用者と職員とで作成した季節の掲示物などがあります。	
			(外部評価) ホーム内は床暖房で、ゆったりとした共用空間は掃除が行き届いていて清潔感がある。随所にいすを置き、自由に好みの場所でくつろげるよう配慮している。壁には利用者の作品や行事の写真等を飾り、利用者の歩行練習やゲーム、ボランティアの演奏等に活用できる広いスペースもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間は広く自分の居室に入るのも自由なので、思い思いの場所で他の利用者や職員と話しをしたりテレビを見たり横になったりと自由に過ごしています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と利用者で話しをして、使い慣れた物を家から持って来ていただいたり、使いやすい方向にベッドを置いたりし、その後は職員と利用者で飾り付けなどをしている。	
			(外部評価) 各居室に洗面台を設置しており、利便性が高い。畳の部屋もある。利用者の使い慣れたいす、衣装ケース、仏壇等を持ち込み、手作りの作品や写真を飾り、居心地よく過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりが、日常生活・レクリエーション・行事を通して利用者が出来る生活動作を失わないように支援している。	